



## 領土問題

5月21、22日にドイツの大学都市ハイデルベルクで第6回田原アショフシンポジウムが開かれた。シンポジウムは、20世紀初めにマールブルク大学病理学研究所(アショフ教授主宰)で我が国の田原淳博士が心臓刺激伝導系を発見したのを記念してのものである。日本から多数の演題が出題されたので、グループ・ツアーを組んだ。また刺激伝導系の障害をもち、ペースメーカーを装着した患者グループ「日本心臓ペースメーカー友の会」の有志会員11名も加わり、約30名のツアーとなった。

友の会会員にとっても有意義な旅行にしたいとの意向があったので、シンポジウム期間中に「日独親善心臓ペースメーカー友の会」を設けることになった。以前ハイデルベルクに留学されたO先生がドイツのOS先生に連絡をとってくださり、ドイツ側から患者7名、医師3名が出席するとの連絡が入った。しかし言葉の問題と会の進行をどのようにしたらよいかの問いが入った。当然のことであるがドイツ人患者は自国語しか話せず、また日本側もそうである。英語を媒介とする医学会のようにはいかないであろう。

しかし私はこのような会合は恐らく初めてのもので大変意義深いものであり、顔を合わせ「ハロー」と言うだけでも成功であると考えていたので、自己紹介など会の次第を伝えた。我々の年代の医師はドイツ語が多少は理解できる。そうであれば分かった一部でも翻訳して伝えれば意思疎通を図れると考えた。

会は傍聴者を含め約40名が出席し、あっという間に予定の2時間が過ぎた。患者同士がそれぞれの体験を言葉あるいは身振り手振りで表現し、言葉の障害は殆どなかった。

あとでドイツ側の出席者に「会はどうでした」と訊いたら「ganz toll(全くすばらしかった)」という返事が返ってきた。OS先生からも「会は非常にエキサイティングでした。これからもこの会が続くとよいと思います」とのメールをいただいた。

友の会の日の夕方、ハイデルベルク城で懇親パーティがあり、私は中国人医師の隣に席をとった。話のやりとりは英語であったが、メモ用紙に中国の歴史上の人物、司馬遷、項羽、劉邦、諸葛孔明、劉備、周恩来、劉小平、江青などの名を書き示した。相手は私が中国の歴史を非常によく知っていると感じた。また、現在の中国の歴史は劉小平の改革から始まると劉首相も高く評価していた。「私は黒龍江省の生まれで、父親から少し日本語を学んだ」とも言っていた。

本誌5月号に「テロリストの元祖」と題して荊軻のことを書いた。私は彼に「秦始皇帝を暗殺しようとして失敗した荊軻は、現在の中国ではテロリストだとして評価が低いというのは本当ですか」と問うた。「とんでもありません。今の中国でも荊軻は英雄です」との答であった。中国人とは漢字で意思が伝えられることを喜んだ。